

平成23年度（2011年度）事業計画（案）

財団法人 日本水泳連盟

所 信

2012年のロンドンオリンピックに向けた本連盟第2年目の主要事業は、概ね順調に遂行されまして、オリンピック前年となる第3年目を迎えることになりました。ここに加盟団体の皆様をはじめ、協賛企業各社様や多くの関係の皆様のご支援ご協力に対し、心より感謝と御礼を申し上げます。そして新しい年度を迎え、「鍛錬の年」から「飛躍の年」にジャンプするべく全力を尽くしていきたいと覚悟を新たにしている次第です。

昨年につきましては、パンパシフィック選手権大会（アーバイン）およびアジア競技大会（広州）の二つの大きな目標に対して、選手、コーチ、関係者が一丸となり努力してまいりました。その結果、競泳、飛込、水球、シンクロ、いずれの種別も世界の流れの中で非常に厳しい状況におかれていることを自覚し、次のステップアップを果たすべきための反省点、今後注力すべき課題などを把握することができました。これらに対しましては、関係者がなお一層努力して解決すべく、全力を尽くして邁進して行く所存です。

さて、本年の競技力向上事業に対しましては、競泳は7月に開催されます『第14回世界水泳選手権大会[50m]（中国・上海）』を最大の重点目標とし、8月の「ユニバーシアード大会（中国・深圳）」、さらに次世代につながる8月の「世界ジュニア選手権大会（ペルー・リマ）」などに、鍛錬した力を基盤に挑戦していきたいと考えております。飛込については、世界レベルへの実力アップを第一とし、メダル争いへの強化対策に注力いたします。水球は、「FINAワールドリーグ」でのスーパーファイナル進出、そして念願の「ロンドンオリンピック・アジア予選（2012.年1月、千葉）」での出場権獲得という大目的を全力で実現すべく努力いたします。また、シンクロにつきましては、選手・コーチともに世代交代の若さのメリットを成果につなげる時期と考え、粘り強い力で早期のメダル奪還を目標においた徹底的な重点強化を実施している状況です。

また、本年私達を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況であることを認識しなければなりません。こうした中でロンドンに向けて前進するためには、忍耐力とともに、日頃培った体力・精神力を基本にして、柔軟な思考に基づくポジティブな行動力の発揮が強く要求される所です。このような情勢を念頭に置き、“新しいチームジャパンの構築”を実現すべく、日本水泳界が一丸となって前進していきたいと念願している次第です。さらに中長期的な育成対策として、各種別におけるジュニア強化策を種々の方法で強力に推進し、リオデジャネイロの世代につなげたいと考えている次第です。

一方、競技運営事業としては、大成功裏に実施できました『FINA競泳ワールドカップ』を、本年は11月；東京辰巳国際水泳場でシリーズ最終戦として開催を受託することになり、加えて前述のオリンピック水球アジア予選の日本開催も大きなイベントとなります。その他の各種事業におきましても、新公益法人移行問題を筆頭に課題が山積しておりますが、総力を結集して取り組む所存です。加盟団体をはじめ関係各位には、引き続き一層のご理解とご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

平成23(2011)年2月20日

会長 佐野 和夫

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競 技 会	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
競	オリンピック大会		◎ 8月		
	世界選手権大会	◎ 7月		◎	
	アジア大会				◎
	ユニバーシアード大会	◎ 8月		◎	
	パンパシフィック選手権大会				◎
	アジア選手権大会			○	
	東アジア大会			○	
	短水路世界選手権大会		○12月		○
泳	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会				○
	ジュニア世界選手権大会	○8月		○	
	豪州ジュニア遠征	○			
	ジュニアパンパシフィック選手権大会		○		○
	ユース・ヨーロッパグランプリサーキット大会	○	○	○	○
	ジュニア・アメリカ遠征		○	○	○
	アジアエージ選手権大会	○		○	
飛	地域代表海外派遣 (シンガポール)	○	○	○	○
	オリンピック大会		◎ 8月		
	世界選手権大会	◎ 7月		◎	
	アジア大会				◎
	ユニバーシアード大会	◎ 8月		◎	
	FINAワールドカップ	○ 2月			
	アジア選手権大会			○	
	東アジア大会			○	
込	カナダ・U.S国際・中国 グランプリ大会	○			
	アジアエージ選手権大会	○		○	
	ジュニア世界選手権大会		○		○
水	オリンピック大会		◎ 8月		
	世界選手権大会	◎ 7月		◎	
	アジア大会				◎
	ユニバーシアード大会	◎ 8月		◎	
	アジア選手権大会			○	
球	FINAワールドリーグ	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会 (U17)	○		○	
	ユース海外派遣 (U19)		○		○
シ ン ク ロ	ジュニア世界選手権大会 (U20)			○	
	オリンピック大会		◎ 8月		
	世界選手権大会	◎ 7月		◎	
	アジア大会				◎
	アジア選手権大会			○	
	東アジア大会			○	
	オリンピック大会予選会		○		
	ワールドカップ大会		○		○
	FINAワールドトロフィー	○	○	○	○
	ジュニア世界選手権大会		○		○
アジアエージ選手権大会	○		○		
ジャーマン・フレンチオープン	○	○	○	○	
チェコ国際ジュニア	○	○	○	○	

1. JOC 事業

(1) 第26回ユニバーシアード大会

- ①期間・場所 8月11日～23日 中国・深圳
- ②競技種目・日程
- (a) 競泳 8月 14日～ 19日
 - (b) 飛込 8月 16日～ 22日
 - (c) 水球 8月 11日～ 23日
 - (d) OWS 8月 13日
- ③選手団編成
- ④選手選考
- (a) 競泳 ①4月 5日～10日 日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場
②5月20日～22日 ジャパンオープン2011 (50m) 東京辰巳国際水泳場
 - (b) 飛込 4月 1日～ 3日 日本選手権大会 相模原市立総合水泳場
 - (c) 水球 4月 9日～10日 日本代表選手選考会 国立スポーツ科学センター
 - (d) OWS 5月22日 ジャパンオープン2011 (50m) 東京辰巳国際水泳場
- ⑤合宿計画
- (a) 競泳 未定
 - (b) 飛込 未定
 - (c) 水球 未定
 - (d) OWS 未定

2. 特別事業

(1) 第14回世界水泳選手権大会

- ①期間・場所 7月16日～31日 中国・上海
- ②競技種目・日程
- (a) 競泳 7月24日～31日
 - (b) 飛込 7月16日～24日
 - (c) 水球 7月17日～30日
 - (d) シンクロ 7月17日～23日
 - (e) OWS 7月19日～23日
- ③選手選考
- (a) 競泳 4月 5日～10日 日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場
 - (b) 飛込 4月 1日～ 3日 日本選手権大会 相模原市立総合水泳場
 - (c) 水球 4月 9日～10日 日本代表選手選考会 国立スポーツ科学センター
 - (d) シンクロ 平成22年12月26日 選手選考会 国立スポーツ科学センター
 - (e) OWS 5月22日 ジャパンオープン2011 (50m) 東京辰巳国際水泳場
- ④合宿計画
- (a) 競泳 未定
 - (b) 飛込 未定
 - (c) 水球 未定
 - (d) シンクロ 未定

(e) OWS 未定

(2) FINA競泳ワールドカップ 東京大会

- ①期間・場所 11月 12日 (土)・13日 (日) 日本・東京
②競技種目・日程
(a) 競泳 11月 12日 (土)～13日 (日) 東京辰巳国際水泳場

(3) 水球アジア地区オリンピック予選

- ①期間・場所 平成24年1月 23日 (月)～27日 (金) 日本・千葉
②競技種目・日程
(a) 水球 平成24年1月 23日 (月)～27日 (金) 千葉県国際総合水泳場

3. 競技力向上事業

担当常務理事 上野 広治

ロンドンオリンピックで水泳ニッポンが活躍できるもできないも、前年の強化が重要であり、競泳(本年度より OWS の強化も含む)・飛込・水球・シンクロ4部門ともに大きく飛躍できるようしっかりとした計画・準備を実施し実践強化を図っていく。現状の強化状態を確認する意味も含めて、月一回特別強化本部会議を開催して4部門の進捗状況を把握する。7月世界選手権・8月ユニバーシアード・9月アジアエージの事前準備に最善を尽くす。各部門とも前年にロンドンオリンピック出場資格を獲得することにより、本番で戦うための準備を十分に行うことができ有利となる。競泳は2003年バルセロナ大会(メダル6個)を目標に、1個でも多くのメダル及び入賞を目指す。飛込・シンクロはメダル・入賞を目指し早めにオリンピック出場権を獲得する。水球は男子だけであるが、世界選手権から1月のオリンピックアジア地区予選(千葉開催)にしっかりと成果が出せるようなロードマップを立案して強化にあたる。

(1) 競 泳

競泳委員長 上野 広治

平成23年度の最主要大会は、7月中国・上海で開催される第14回FINA世界選手権大会である。北京五輪のメダリストは、すべて前年の世界選手権メダリストであったように、翌年のオリンピックの前哨戦と言える。個人種目に関しては、2オリンピック大会において20種目が決勝進出していることから、決勝で戦える選手を数多く育成することが重要と考える。団体種目に関しては、世界選手権のリレー12位以内はオリンピックの出場資格を自動的に確定することから、6種目全ての権利獲得を目指す。また大会結果から選考基準の信憑性を検証し、次年度のオリンピックの選手選考方法を立案する。

世界選手権は4月の日本選手権で代表を選考、ユニバーシアード大会は、4月の日本選手権と5月のジャパンオープンのコンバインで代表を選考する。前年に引き続きオリンピック候補強化合宿(本年は準候補は無し)を実施し、ロンドンオリンピックで金メダル及びメダルを獲得するための重点強化をJISSの協力のもと組織的に行い、トップクラスのレベルアップを図る。

ジュニア強化(高校生及び中学生)は、ジャパンオープンで第3回ジュニア世界選手権の代表を選考。下期は、夏季ジュニアオリンピックでジュニア選抜遠征(シドニー予定)・アジアエージ大会(中学生のみ選考)に派遣する方向である。地域代表海外国際大会は、引き続きシンガポールに派遣しさらに強化する。また、国内強化合宿はジュニアナショナ

ル強化合宿（中央）とジュニアブロック合宿（地域）、さらに小学生優秀選手の強化合宿も継続実施する。

① 国際競技会

(a)	ヨーロッパグランプリサーキット	6月	ヨーロッパ
(b)	第3回ジュニア世界選手権	8月	ペルー・リマ
(c)	アジアエージ大会	9月	インドネシア・パレンバン
(d)	ワールドカップ大会	10-11月	ヨーロッパ・アジア
(e)	ジュニア選抜 遠征	2月	オーストラリア(予定)
(f)	ジュニア地域代表国際大会	3月	シンガポール

② 強化トレーニング

(a)	海外合宿(フラッグスタッフ・ Guam)		
(b)	世界選手権国内合宿(北海道)		
(c)	インターナショナル強化合宿	12月-2月	JISS・Guam(4回)
(d)	ナショナル強化合宿	12月	鈴鹿・富士
(e)	自由形強化合宿	12月	富士
(f)	地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県
(g)	エリート小学生合宿	9月22-25日	JISS

③ コーチ派遣

ASCA 会議	9月	アメリカ
---------	----	------

④ 企画、研修及び講習会

(a)	全国強化コーチ会議	10月	東京
(b)	ナショナルコーチングスタッフの育成	10月	東京(クリニック)
(c)	強化コーチの巡回指導	12月	
(d)	ブロック合宿担当者会議	10月	東京

(2) 飛 込

飛込委員長 末弘 昭人

ロンドンオリンピックまで残すところ1年半となったが、飛込競技にとってはこれからの1年間でロンドンに何人の選手を送る事ができるかが確定する重要な年となる。

F I N A T D Cは、7月に開催される世界水泳(中国・上海)と2月に開催されるワールドカップ(英国・ロンドン)の上位選手に対してロンドンオリンピックへの出場権を与える事を発表した。平成23年度は、1人でも多くの選手がロンドンへの切符を手にする事を最重要課題として、この2つの大会の他4月・5月に開催されるF I N Aグランプリシリーズのカナダ・アメリカ大会および6月開催のイタリア大会、そして8月開催のユニバーシアード大会(中国・深圳)に代表選手を派遣する。

例年行っていた中国合宿は、オーストラリアなど練習環境の整った他の国へも視点を広げて多面的に実施し、世界でもトップクラスの選手を育てた各国のチーム・コーチと情報交換をして選手強化・指導力両面での向上を目指す。

ジュニアの強化においては一昨年から始めた小学校6年生のジュニア合宿参加を継続し、

基礎技術習得の上で一番重要な早期ジュニアの時期に、正しい踏み切り・空中姿勢・体幹の締めを身に付けさせる。また、ジュニアの時期から国際交流の経験を積ませる事を目的として平成22年度に初めて導入した費用の一部補助による海外遠征は、参加した選手・コーチそれぞれにたいへん良い経験ができたので、引き続き実施する。

また、4月の日本選手権開催に合わせてFINA School for Diving, Certification Courseを開講し、国際審判資格の維持と同時に国内における審判技術の向上に努める。

1. 国際大会代表選手選考

4月に開催する日本選手権において国際大会代表候補選手を選考し、その中から世界水泳とユニバーシアードに選手を派遣する。

2月に開催され、ロンドンオリンピックへの最終選考の場となるワールドカップ(2月・ロンドン)では、世界水泳においてオリンピック出場権を獲得した選手は当該種目には参加せず、オリンピック出場権獲得の可能性を最大化するために次点の選手を参加させる。

2. 世界水泳選手権

4月開催の日本選手権において選手を選考し、事前合宿を経てカナダ～アメリカグランプリとイタリアグランプリに出場して勝負感・国際感を養う。帰国後は国内における強化合宿において最終調整をして上海に向かう。

前回大会では8位が最高でメダルの獲得ができなかったが、今遠征ではメダル獲得と同時に、ロンドンオリンピックへの出場権獲得を狙う。

3. ユニバーシアード

4月開催の日本選手権において選手選考をし、事前合宿、カナダ～アメリカグランプリとイタリアグランプリに派遣する。国内強化合宿のあと一部の選手は世界選手権にも派遣し、帰国後あらためて深圳に遠征する。

本大会では、前回獲得できなかったメダル獲得を目標とする。

4. ワールドカップ

既に世界選手権でロンドンオリンピック出場権を入手した種目では当該選手以外の選手を参加させる。シーズン終了後に組み替えた新チームで11月・12月・1月と合宿を重ね、世界選手権において取りきれなかったオリンピックへの切符を一つでも多く獲得する事を一番の目標とする。また、ワールドカップにおいては世界選手権以上にシンクロナイズドダイビングへの強化比重を高め、シンクロナイズドダイビングについてもオリンピック出場権の獲得を目指す。

① 国際競技会

(a)	FINA グランプリ CAN・AM大会	4/28～5/8	カナダ～アメリカ
(b)	FINA グランプリ イタリア大会	6/10～12	イタリア・ホルツァーノ
(c)	アジアエージグループ選手権	9月	インドネシア・パレハシ
(d)	FINA ワールドカップ大会	2/20～26日	イギリス・ロンドン

② 強化トレーニング

(a)	ナショナルチーム強化合宿		
(ア)	国内事前合宿		
	・世界選手権・ユニバー事前合宿	7月	沖縄または九州
(イ)	海外強化合宿		
	・ワールドカップ事前合宿	12月・1月	2回
(b)	ジュニア強化		

(ア)	国内事前合宿	12月・3月	2回
③	特別強化事業		
(a)	国内・海外強化合宿	4・11・3月	3回
④	企画、研修及び講習会		
(a)	強化コーチ会議	10月 他	数回
(b)	全国ブロック代表会議	12月	1回
(c)	審判員研修会		
(ア)	FINA Judges School	4月	1回(相模原)
(イ)	国内審判研修会	4月・6月 他	3回

以上

(3) 水 球

水球委員長 原 朗

平成23年度上期の競技力向上事業については、まず上海世界選手権において大変厳しい目標ではあるが男子は予選リーグの突破を目指したい。ワールドリーグについては、男女ともにファイナルへの進出を目標にしている。また、ユニバーシアード大会では、3大会継続して6位以内の入賞を果たしていたが、前回2009年ベオグラード大会では10位に終わった。今回はユニバーシアードチームを早々に編成して入賞以上の結果を取り戻したい。

下期にはロンドンオリンピックの大陸予選が開催される。上期国際大会で厳しい試合経験を積んで競技力強化を図り、国内外の強化合宿では、日中合同合宿（日本開催）の実施と、海外強化拠点の豪州との相互間での強化合宿を積んでオリンピックアジア地区予選に臨み、悲願であるオリンピック出場権を勝ち取りたい。また、代表チームの中核を重点強化するため、海外強豪クラブに派遣を継続している4名の選手については来年度のロンドンオリンピックのアジア地区予選に万全を期するため、継続の見直しを含めて委員会内で慎重な審議を行い、柔軟に対応していく。

男女ジュニア育成・強化については、2016年リオデジャネイロオリンピック時にチーム主力選手となる1993年-1995年生まれの年代を中心に国内において強化を図る。才能ある選手は積極的に代表の国内強化合宿に参加させていきたい。今後、この年代は2012年アジアジュニア選手権・2013年世界ジュニア選手権に出場させ強化を進めたいと考えている。最後に、来年度は日本水球界にとって2002年から試行錯誤しながら進めてきた「チャレンジ10」の仕上げの年度となる。強化事業の推進にあたっては、厳しい日本水球の状況を認識し、目標とする結果が達成できるように全力で取り組んでいきたい。

① 国際競技会

- | | | | |
|-----|-------------------------|--|---------------|
| (a) | ワールドリーグアジアオセアニアラウンド(男子) | | |
| | | 5月11日～15日(NZ・クライストチャーチ)、5月17日～21日(豪州、シドニー) | |
| (b) | ワールドリーグアジアオセアニアラウンド(女子) | | |
| | | 5月13日～15日(NZ・クライストチャーチ)、5月19日～21日(豪州、シドニー) | |
| (c) | ワールドリーグスーパーファイナル(男子) | イタリア | 6月21日～26日 |
| (d) | ワールドリーグスーパーファイナル(女子) | 中国・天津 | 6月14-19日 |
| (e) | ロンドンオリンピックアジア地区予選(男子) | 日本・千葉 | 2012年1月23-27日 |

- | | | | |
|-----|--------------------------------|----------------|------|
| (f) | ロンドンオリンピックアジア地区予選(女子) | 日本・千葉 | 同上 |
| ② | 国際大会派遣選手選考会 | 4月9, 10日 | JISS |
| ③ | 強化トレーニング | | |
| (a) | 海外強化拠点合宿(男子) | オリンピックアジア地区予選前 | 豪州 |
| (b) | 国際競技会国内事前合宿(男女) | | |
| (c) | ナショナルチーム強化合宿(男女) | | |
| (d) | ニュージーランド代表合同合宿(女子) | 7月上旬予定 | JISS |
| (e) | ジュニア研修合宿 | 10月中旬 | 鈴鹿 |
| (f) | 男子代表海外クラブチーム個人派遣 | | |
| ④ | チーム招待・コーチ招聘 | | |
| (a) | 中国代表合同合宿(男子) | 6月中旬予定 | JISS |
| (b) | 豪州選抜合同合宿(男子) | オリンピックアジア地区予選前 | JISS |
| ⑤ | 企画・研修および講習会 | | |
| (a) | 強化コーチ会議 | | |
| (b) | タレント発掘・巡回指導 | | |
| (c) | 国際情報収集 | | |
| (d) | 日本代表ゲーム分析・評価事業 | | |
| (e) | 研修会 | | |
| (f) | コーチ研修会 | | |
| (g) | 審判員・指導者合同研修会 | | |
| (h) | ジュニア指導者研修会 | | |
| (i) | 水球教室:簡易水球(仮称:ウォーターゲーム)普及・強化の展開 | | |
| (j) | 水球競技広報活動(イベントの検討) | | |
| ⑥ | 地域競技会の充実支援、審判員の育成 | | |
| (a) | 全国水球委員長会議 | | |
| (b) | 水球地域ブロック会議 | | |
| (c) | 審判員講習会 | | |
| (d) | 競技運営研修会 | | |

以上

(4) シンクロ

シンクロ委員長 本間 三和子

平成23年度の主要大会は、第14回 FINA 世界選手権大会(7月、中国・上海)である。厳しい戦いが予想されるが、ロンドンオリンピックに向けて重要な位置づけとなる世界選手権においてオリンピック出場圏内の上位入賞を確保すべく、関係者一丸となり何とでも突破口を開きたい。頑丈でシャープな身体づくり、水上体積(高さ)の向上、パワー・

スピードの増強を最重要課題とする。また、日本固有の良さを残しつつ斬新な演技プログラムに挑戦するため振付コーチの招聘を継続、難易度アップとハイライト強化をめざし、徹底した強化トレーニングを積んで世界選手権に挑む。下期は、翌年のオリンピックに照準を合わせ、代表選手を早期に選考し、特別強化合宿・海外強化合宿を重ねてレベルアップを図る。

ジュニアは、第7回 AASF アジアエイジグループ選手権（10月、インドネシア）にジュニア代表チームを派遣する。翌2012年 FINA 世界ジュニア選手権を視野に入れ、代表メンバーの半数以上を若年年齢の選手で構成する。フィギュアの高さと正確性の向上、ルーティンのスピード・パワーの徹底強化を図り、アジア制覇をめざす。

また、2016年、2020年のオリンピックを見据えたユース年代（12- 15歳）の強化育成を継続実施する。将来性豊かな有望選手を全国8ブロックより発掘し、表現力、ダンス、トランポリンなど各所属では取り組むことが難しいトレーニングを中心に、ユース有望選手合宿を実施する。有望選手からさらにエリート強化選手・ジャンパー強化選手を少数選考し、エリート強化合宿を通して、次世代の中心戦力になる選手を着実に育てたい。ユース強化事業の一環として、アジアエイジグループ選手権（10月、インドネシア）およびクリスマス・プライズ国際大会（12月、チェコ）に13- 15歳年齢区分のエリート強化選手を派遣する。

選手強化と合わせてトップ指導者の育成と国際情報収集・分析に力を注ぐ。シンクロの専門知識・指導技術を実践的に学ぶ研修会やコーチキャンプを開催し、高い指導力を有するトップコーチの育成を図る。

① 国際競技会

(a)	FINA ワールドトロフィ大会	(日程・場所未定)
(b)	アジアエイジグループ選手権	10月 インドネシア・パレンバン
(c)	ジャーマンオープン	3月 ドイツ・ボン
(d)	フレンチオープン	3月 パリ・フランス
(e)	チェコ国際ジュニア大会	12月 チェコ・プラハ

② 強化トレーニング

- (a) 国際競技会国内事前強化合宿
- (b) ナショナルチーム特別強化合宿
- (c) ユース有望選手特別強化合宿、ユースエリート・ジャンパー育成特別強化合宿
- (d) 全国選抜シニア・ジュニア中央強化合宿
- (e) ジュニアフィギュア強化合宿

③ 企画・研修および講習会

- (a) ナショナルコーチ会議、強化会議
- (b) 国際審判員会議
- (c) 国際情報収集、競技力分析
- (d) 全国強化コーチセミナー、コーチキャンプ
- (e) 審判研修会
- (f) ユース発掘・巡回指導
- (g) 競技者育成プログラムバッジテスト
- (h) シンクロ委員会・委員総会

以上

(5) 医・科学委員会

医・科学委員長 野村 照夫

平成23年度は、関係諸委員会、JISS, JOC とより連携を深め、競技力向上に関する科学支援事業を展開する。現場の意見を反映したレース分析を目指して分析方法を改善し、国内競技会等で実施する。そして、教育・啓発活動においては、日本水泳・水中運動学会年次大会への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供を骨子とし、養成講習会の講師派遣等への協力を行う。その他、ジュニアの競技力向上に関する科学サポートを推進し、エリート小学生や準強化選手の合宿等で科学情報の収集や提供に協力する。また、飛込、水球、シンクロの各委員会が行うジュニアに対する科学サポートを支援する。

- ① 競泳のレース分析
 - (a) 分析方法の改善
 - (b) 第87回日本選手権大会 競泳競技におけるレース分析
 - (c) ジャパンオープン2011(長水路)におけるレース分析
 - (d) 第53回日本選手権 競泳競技(25m)におけるレース分析
- ② 教育・啓発活動
 - (a) 2011年度 日本水泳・水中運動学会年次大会への協力
 - (b) 指導者資格付与制度への協力
- ③ ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進
 - (a) 競泳エリート小学生合宿における科学サポート
 - (b) 競泳準強化合宿における科学サポート
 - (c) 水球、飛込、シンクロのジュニア科学サポートへの協力

(医事部)

平成23年度は、関係諸委員会、JISS, JOC との連携をさらに深め、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動を行う。具体的には、各種競技会における救護活動、国際競技会大会選手団に対するメディカルサポート、強化対象選手のメディカルチェック、アンチ・ドーピング活動、傷害予防プログラムの考案と実践、JISS クリニックにおける医事相談活動、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的としたメディカルサポートミーティングを実施する。

また教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議、スポーツ医学・健康医学セミナーへの協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。さらに、指導者資格付与制度に対し、養成講習会への講師派遣等の協力を行う。

- ① 競技大会における救護・支援活動
- ② 競技選手へのメディカルサポート活動
 - (a) 選手のコンディショニングおよび障害・疾病の管理
 - (b) アンチ・ドーピング活動
 - (c) 強化指定選手のメディカルチェック・障害予防プログラムの実践
 - (d) 強化指定選手の医事相談活動及び調査研究活動
 - (e) メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化
- ③ 教育・啓発・研究活動
 - (a) 日本水泳ドクター会議への協力
 - (b) 日本水泳トレーナー会議への協力

- (c) スポーツ医学・健康医学セミナーへの協力
- (d) 障害を予防するための研究・予防プログラムの普及
- (e) 指導者養成講習会への講師派遣

4. 競技運営事業

競技運営事業担当 安部 喜方

本年度の国際大会は、5月にシンクロジャパンオープン、11月に、競泳の世界カップ、2012年の1月には千葉国際総合水泳場で水球のオリンピックアジア地区予選会が開催される。

審判員制度が運用され2年目を迎える。A級審判員登録者も増えた。2月開催の日本選手権（25m）、4月開催の日本選手権（50m）、5月のジャパンオープンに、A級取得者も実技研修に参加し審判員の研鑽を積んでいただく機会を設ける。また、4月の日本選手権で競技委員長会議を開催する。今年度も、競技役員養成講習会・研修会を各地で行い、競技運営の向上を図る。9月に行われる日本学生選手権は、神奈川県横浜国際プールで行う。

(1) 競技委員会

競技委員長 安部 喜方

① 競技運営

- (a) 各種目競技会日程要項作成
- (b) 各種目競技会要項に基づく競技会の実施・運営
- (c) 国際大会の開催
 - FINA 競泳ワールドカップ

(d) 主要競技会

【競泳競技】

(ア) 日本選手権水泳競技大会 兼第14回世界水泳選手権大会代表選手選考会 兼第26回ユニバーシアード競技大会代表選手選考会	4月5日～10日	辰巳国際	東京
(イ) ジャパンオープン2011(50m)	5月20日～22日	辰巳国際	東京
(ウ) 日本大学・中央大学対抗戦	7月2日	辰巳国際	東京
(エ) 早稲田大学・慶応義塾大学対抗戦	7月3日	辰巳国際	東京
(オ) 日本実業団水泳競技大会	8月6日・7日	長良川スイミング プラザ	岐阜
(カ) 全国国公立大学選手権大会	8月10日・11日	京都アクアリーナ	京都
(キ) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	盛岡市総合	岩手
(ク) 全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	門真スポーツセン ター	大阪
(ケ) 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～30日	辰巳国際	東京
(コ) 日本学生選手権水泳競技大会	9月2日～4日	横浜国際	神奈川
(サ) 国民体育大会	9月9日～11日	きらら博記念 公園	山口
(シ) 日本短水路選手権水泳競技大会	2月11日・12日	辰巳国際	東京
(ス) 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月27日～30日	辰巳国際	東京

【飛込競技】

(ア) 日本選手権水泳競技大会	4月1日～3日	相模原市総合	神奈川
(イ) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	盛岡市総合	岩手
(ウ) 全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	門真スポーツセン ター	大阪

(エ)	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～29日	大阪プール	大阪
(オ)	日本学生選手権大会	9月3日～4日	ダイエープロビス エニックス	新潟
(カ)	国民体育大会	9月9日～11日	広島市総合	広島
【水球競技】				
(ア)	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	秋田県立総合	秋田
(イ)	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～30日	門真スポーツセン ター	大阪
(ウ)	日本学生選手権大会	9月1日～4日	相模原市総合	神奈川
(エ)	国民体育大会	9月12日～15日	きらら博記念 公園	山口
(オ)	日本選手権水泳競技大会	9月30日～10月2日	辰巳国際	東京
(カ)	全国女子水球競技大会	9月30日～10月2日	辰巳国際	東京
(キ)	全日本ユース(U15)選手権大会	12月24日～27日	倉敷市屋内他	岡山
(ク)	全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月26日～30日	千葉国際	千葉
【シンクロ競技】				
(ア)	日本選手権水泳競技大会	5月2日～5日	辰巳国際	東京
(イ)	日本シンクロチャレンジカップ2011	8月11日～14日	辰巳国際	東京
(ウ)	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月27日～30日	富山県総合	富山
(エ)	国民体育大会	9月7日	きらら博記念 公園	山口
(オ)	13・15歳ソロ・デュエット大会	1月21日	辰巳国際	東京
(カ)	ナショナルトライアル2012	1月22日	辰巳国際	東京
【その他】				
(ア)	OWSジャパンオープン2011館山	7月17日	館山市北条海 岸	千葉
(イ)	日本マスターズ大会	7月15日～18日	辰巳国際	東京
(ウ)	日本泳法大会	8月20日・21日	千葉国際	千葉
(エ)	日本スポーツマスターズ	8月27日・28日	金沢市営総合	石川
(オ)	日本泳法研究会	3月17・18	アリアレットま つやま	愛媛

- ② 競技役員研修会・講習会
 - (a) ブロック
 - (b) 各地域
 - (c) 日本選手権・ジャパンオープン(50m)・日本短水路の実技研修
- ③ 競技委員長会議の開催
- ④ 選手登録
- ⑤ 競技役員登録(登録のデータ化)
- ⑥ 競技運営企画・立案
- ⑦ 記録の公認・管理
 - (a) 日本記録の公認および高校・中学・学童記録の公認
 - (b) FINAへの世界記録の申請
 - (c) ホームページ上の記録の管理
- ⑧ 資格表の作成

(2) 学 生

- ① 全国代表者会議の開催(年4回)

- ② 日本学生選手権大会の開催
- ③ 全国国公立大学選手権大会の開催

(3) ジュニア

- ① 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会の開催
- ② 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会の開催

5. 指導者養成事業

指導者養成事業担当 設楽 義信

競技力向上コーチ委員会は、研修会・養成講習会の会場手配も終了し、今後も世界で戦えるトップアスリート育成を目指し、研修会では最新知識の供給に努める。また、基礎水泳指導員の免除規定を利用しコーチの早期育成を行っていく。

今年度も、全国13会場で行われる研修会を充実させていく。

地域指導者委員会は、コーチ資格への移行を条件にした、トップアスリート及びトップアスリート育成コーチに対しての講習・検定試験の免除申請受付を今後も継続していく。

上級指導員の講習・検定及びマスター上級指導員義務研修を実施、また、加盟団体と連携をとりながら免除校検定試験、養成・更新登録業務も推進する。

水泳教師委員会は、全国のスイミングクラブとタイアップして職業人としてプロの水泳指導者の養成事業を推進していく。水泳教師養成、新規資格登録及び更新事務、在籍施設証明書の発行、適応コース検定会の実施等の幅広い業務を行う。

(1) 競技力向上コーチ委員会

競技力向上コーチ委員長 設楽 義信

- ①資格審査会(年2回)の実施
- ②コーチ資格の新規登録・更新登録事業
- ③コーチ研修会事業(コーチ11会場・上級コーチ2会場)
- ④新規養成講習会(コーチ・上級コーチ)事業の推進

(2) 地域指導者委員会

地域指導者委員長 宮本 憲二

①スポーツ指導員に関する事業

- (a) (財)日本体育協会 指導員・上級指導員新規養成事業の推進(加盟団体による指導員養成)
- (b) (財)日本水泳連盟による上級指導員の養成(福島・香川)
- (c) (財)日本体育協会 指導員・上級指導員資格取得者の登録及び有資格者の更新
- (d) 基礎水泳指導員に関する事業
 - (ア) 基礎水泳指導員資格取得者の登録
 - (イ) 養成に関わる督励・指導・助言
 - (ウ) アスリート基礎水泳指導員資格免除認定審査
- (e) 免除適応校専門科目検定
全国5会場(北海道, 東京, 名古屋, 大阪) 予定
- (f) マスター指導員中央研修会の実施
- (g) 安全対策の普及徹底

- (h) 全国地域指導者(普及)委員長会議の開催
- (i) 各種依頼事業への協力
- ②普及に関する研究事業
 - (a) 水泳指導教本出版, 担当者の手引き改訂
 - (b) 総合補償制度への加入推進
 - (c) 加盟団体各地域委員長会議の開催
- (3) 水泳教師委員会

水泳教師委員長 澁谷 俊一

- ①水泳教師新規養成事業の推進 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - (a)適応コース講習検定会の実施 5校 (日本水泳連盟が担当)
 - ・大阪社会体育専門学校
 - ・東京スポーツレクリエーション専門学校
 - ・トライデント・スポーツ健康科学専門学校
 - ・東京 YMCA 社会体育専門学校
 - ・東京リゾート&スポーツ専門学校
 - (b)新規養成コース講習検定会の実施 (日本スイミングクラブ協会が担当)
 - ・日本スイミングクラブ協会全国10支部の各会場にて開催
 - (c)「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施
- ②水泳教師資格の新規・更新登録事業 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - ・4月・10月認定「日水連・SC協合同検定委員会」の開催
- ③水泳教師資格更新研修会事業 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - ・日本スイミングクラブ協会 全国10支部の各会場にて開催
 - ・更新研修会受講通知作業(日本水泳連盟が担当)
- ④水泳教師在籍施設証明事業の推進 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - ・4月・10月認定 認定施設の新規・更新登録事業

6. 国際関係事業

国際関係事業担当 佐野 和夫

- (1) 国際水泳連盟 (F I N A) 及びアジア水泳連盟 (A A S F) 関連業務
- (2) 諸外国との交流に関する業務 (競技者資格証明の発行等を含む)
- (3) 国際大会招致・開催に関する諸業務

7. 生涯スポーツ・普及事業

生涯スポーツ・普及事業担当 鈴木 大地

生涯スポーツ普及事業の活動範囲は多岐にわたるが、オリンピックなどの国際競技大会をピラミッドの頂点とすれば、本事業はピラミッドの底辺を担う。地味ではあるがその自負とともにその責任遂行のため本年度も普及促進に邁進する。

OWS委員会では普及および競技運営に加えて競技力向上の面では、ロンドンオリンピック出場を視野に入れ、まずは世界選手権上海大会でよりよい成績を上げるために準備を行なう。

生涯スポーツ委員会では年々参加者が増加している泳力検定の更なる発展と10年を経過した日本スポーツマスターズ大会の参加者増に向け改革の年とする。

日本泳法委員会については、日本泳法大会を千葉県で初めて開催をする。第3回目になる游士研鑽会も軌道に乗り、受験者の練士合格の傾向値の分析も進み、指導方法についてアドバイスを研究中である。日本泳法研究会においては、課題の「神伝流」が発祥地大洲から松山、津山への伝承に関する重要資料の発見があり、新たな発表が期待される。また、委員会所蔵になった資料の公開に向けたデータの取り込みを行ない一般公開を促進する。

(1) 日本泳法委員会

委員長 八木沼 正彦

- ① 第56回日本泳法大会 8月20・21日 千葉国際水泳場
- ② 游士、練士、教士、範士の資格認定、游士研鑽会の開催
- ③ 第61回日本泳法研究会 H24年3月17・18日 愛媛県松山市
 - ・ 課題「神伝流」委員会所蔵となった資料(斉藤武五郎・三上節造両氏収集)の公開に向けたデータの編集と取り込み作業

(2) OWS委員会

委員長 鷺見 全弘

- ① 競技会運営(安全重視の競技会運営)
 - (a) 「OWS ジャパンオープン 2011 館山」の開催
 - (b) 世界選手権・ユニバーシアード予選会、都心部での競技会の開催
 - (c) サーキットシリーズ化に向けた各地の OWS 大会の支援協力
- ② 普及発展
 - (a) OWS スイムクリニック、OWS検定会の開催
 - (b) 「OWS 指導員制度」(案)の立案・調査
 - (c) 競技会のサーキットシリーズ化構想の継続推進
- ③ 競技力向上
 - (a) 強化部門の立ち上げ
 - (b) 国際大会への選手派遣(世界選手権上海、ユニバーシアード、FINA マラソンスイミングワールドカップ他)

(3) 生涯スポーツ・普及委員会

委員長 鈴木 大地

- ① 泳力検定制度の推進
 - (a) 検定者数の増加
 - (b) 検定級および検定料の見直し
 - (c) 泳力検定優秀団体表彰
- ② 日本スポーツマスターズ大会(8月27・28日石川)の運営
 - (a) 参加都道府県および選手の増加
 - (b) 告知方法の検討および事務手続き簡略化への工夫
 - (c) 大会中の魅力ある企画を立案
- ③ 地域スポーツ活動への支援・協力
 - (a) 優秀登録団体表彰

8. 総 務

総務事業担当 坂元 要

広報委員会は、月刊水泳については、主要競技大会の結果報告と各委員会の活動報告、国際関係報告をタイムリーに伝達できるように努めたい。定期発行は大会報告の時期として15日発行が良いと判断し、今年度も毎月15日発行を目指していく。その上で、月刊水泳は定期購読を増やすために、年2回増刊号発行や大会会場で定期購読のアピールを行う。そして、多くの情報収集を行い、月刊水泳のより一層の内容充実に努めたい。また、予算面からは、制作、印刷業務の見直しを常に行ない、適正な管理を行っていききたい。

ホームページ事業は、運営会社、協力会社との連携をよりスムーズにして、主要競技大会の告知、結果速報、各委員会からの情報掲載等を迅速に掲載し、コンテンツの充実に努めたい。水泳関係者だけでなく、水泳愛好者、国民全般の方から、より多くのホームページの活用を頂ける様にして行きたい。予算面についても、土日祭日の対応業務に懸かるコスト等を見直しを行い、適正な管理を行っていききたい。

広報活動として、スポンサーへの挨拶廻りや主要競技会でのプレゼンター手配等のサポートを行いたい。

施設用具委員会は、プール公認規則2010年度版の水泳関係者、加盟団体担当者及び公認測量者にさらに周知徹底する。説明に必要な資料として、申請関係・測量関係・プール計画についてのマニュアルを作成し、質問等に対応したい。また、委員会及びホームページの充実に努めていききたい。公認規則の検索、申請用紙の検索、「Q&A」欄、公認プール台帳等の情報提供をしていききたい。水泳競技を取り巻く用器具の研究、審査並びに新規プールへの適切なアドバイスが出来る体制と資料作りを行っていききたい。

情報システム委員会は、競技者登録・大会エントリーシステム（Web-SWMSYS）は競技者登録数の正確性向上、登録申請の差分申請の明確化、エントリー登録者から正規登録への変更の容易化など、システムの最適化、改善化を行った。来年度（23年）は、「Web-SWMSYS」が、運用を始めて5年を経過することからハード機器の保守運用期限切れとなる為、これを契機として今後5年間のシステム運用（24時間365日ノンストップ、24時間以内復旧、セキュリティ対策）を考えて最善の構築をして行きたい。

総務委員会は平成24年4月からの公益財団法人への移行認定へ向けて、会計基準の確定、定款及び諸規則の作成等を着実に推進していききたい。その他、各委員会との連絡調整を密接に行ない、諸事業の運営・管理が円滑にできるようにサポートをしていききたい。また、オフィシャルサプライヤー・サポートサプライヤー及び公認推薦企業を含むスポンサー各社との連携強化を図り、“センターポールに日の丸を”の目標に向かってサポート体制の強化を図りたい。

（1）広報委員会

広報委員長 村山 よしみ

- ① 月刊水泳の内容充実と定期購読者増
- ② ホームページの充実と活用促進
- ③ 広報活動

（2）施設用具委員会

施設用具委員長 國富 進

- ① プール公認規則の整備・実施・情報提供

- ② プール施設の公認（事前・新規・再公認）
- ③ 施設用器具の公認・推薦
- ④ プール用器具の研究・審査

(3) 情報システム委員会

情報システム委員長 須永 孝

- ① Web-SWMSYSのシステムの改善
 - ・システムの寿命補強対応
 - ・システムの機能改善要望のまとめ
 - ・他システムとの連携（記録管理システム等）
- ② リザルトシステムの改善要望事項のまとめ
- ③ 記録ランキングシステムの委託サポート

(4) 総務委員会

総務委員長 坂元 要

- ① 事業計画の作成
- ② 新公益法人制度移行への対応
- ③ 規定集の整備と実施
- ④ 公認・推薦等、事業の推進と統括
- ⑤ 免税募金事業の推進と統括
- ⑥ 有功章の表彰
- ⑦ 各種登録及び更新業務
- ⑧ オフィシャルサプライヤー制度の推進
- ⑨ 各種会議の開催
- ⑩ 各種の渉外業務
- ⑪ 地域会議の開催
- ⑫ 事務局の管理

9. 財務一般会計

財務担当 山重 美登士

- ① 予算の作成と執行管理
- ② 中長期財務対策

10. 特別委員会

(1) 財務委員会

財務委員長 堀 正美

- ① 免税募金業務の推進

(2) 競技者資格審査委員会

競技者資格審査委員長 青木 剛

競技者資格の審査

- (3) 選手選考委員会
国際競技会派遣日本代表選手団の選考
選手選考委員長 佐野 和夫
- (4) 指導者養成委員会
指導者養成制度の確立と資格認定審査
指導者養成委員長 設楽 義信
- (5) アンチ・ドーピング委員会
アンチ・ドーピング活動の計画と推進
アンチ・ドーピング委員長 佐野 和夫
- (6) スポーツ環境委員会
スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進
スポーツ環境委員長 佐野 和夫
- (7) 倫理委員会
倫理、社会規範意識の啓発と指導
倫理委員長 青木 剛
- (8) 国際委員会
国際関係の情報共有推進と国際競技会の開催計画
国際委員長 佐野 和夫